SBI新生銀行グループ　リスク選好方針（要旨）

■量質転化を追求し、相乗的かつ持続的な量と質の成長を実現する。

●SBIグループおよび地域金融機関との連携を通じた顧客基盤、預金量、営業資産残高といった「量」の拡大を図る。
●一定の自己資本比率を維持するために、営業資産の拡大のみに依拠するのではなく、品質・収益性・効率性といったポートフォリオの「質」の向上をこれまで以上に意識する。
●「量」の拡大と「質」の向上の相乗的な成長を実現することで、着実に利益を獲得し、当行グループの持続性・成長性に対して信認を受ける。

■当行グループのリスクテイク能力に関しては、以下3点に留意する。

●今後の資本政策を踏まえ、規制資本・リスク資本ベース双方での健全性、収益性を意識する。 ～リスク資本の予算管理に加えて、規制資本ベースでの健全性、収益性を評価指標としてリスク量をモニタリングしていき、事業ポートフォリオの修正が必要な場合には、機動的に対応していく。
●与信集中に留意し、資産の健全性を維持する。 ～貸倒損失による利益の変動性を抑制するため、与信集中（個社集中・業種集中）について慎重な検討やモニタリングを行う。
●安定的な資金調達構造を維持する。 ～安定的な資金調達構造を構築するため、預金の粘着性の変化に留意しつつ、粘着性の高い預金獲得のための施策を実施する。営業性資産の積み上げに際して、流動性カバレッジ比率の低下に十分留意する。

注．上表の基本方針の下、「資本充実度」、「与信集中」、「資金流動性・資金調達」、「ビジネス」、「オペレーショナルリスク」の5カテゴリーごとに、リスクアペタイトとリスクリミット等を設定している。